

『トット・スクープ・文化帖』

一角だけが森林めいたベル群にまっけて形成されている奇妙な山を中心とした世界、山の中腹に降り立ったレイム達。

格好から判断するに新聞記者になったレイムは、いきなり何から逃げているポロポロの砂名丸アヤに出くわす。

「なんかよくわかんないけど、なんで天狗なのに走って逃げてるの？」

【アヤ vs 河童軍団】

面喰のついでに道に迷ったアヤは毒つきながら河童軍団との戦闘を開始。河童達は「カタ」「コロリストがー」等と叫んでいるが、そんな事は関係なしとばかりに「アヤ、ちぎっては投げちぎっては投げの無双状態。」

【アヤ vs 魔理沙】

河童達がひるんでいるうちに魔理沙登場。

「かっこの地に跋扈したっつーバケモンを封印した写真、『最後の一枚』…ほいせー！」戦闘をしかける魔理沙。

てめ、ミスティア、リグルを召喚するも瞬殺。「うはあ、役に立たねー。やっぱ手を借るんなら猫とかでござるよかっただ…でもめんどめんどいかな」魔理沙返場。

【アヤ vs コイツ】

「だいたいわかったわ」レイムとアヤ戦闘開始。三連戦。鴉の焼き鳥なんて食べたくないけれど。前回得たモコウに変身するもアヤのスピードに歯がたたない。ならば、とサクヤに変身。時を操る能力で肉迫する。その余波で河童たちダメージ。河童返場。

もともとダメージを負っていた上に二連戦をこなした後のアヤは追い詰められる。コイツが決着がつくとしたとき盾をかっいだキミシが割って入る。でも吹っ飛ばされる。

「ストップ！待ってくださわぎゃあー！みたいな萌え。アヤは焦ったまっけて返場。

戦闘終了。レイム達はキミシを滝の裏にあるという天狗の駐屯地へ送って行くこと。

大将棋に興じるキミシ達（サナエ、橙）。なんでやねん。可愛いキミシに対して「私、妹がいた気がする……」「あなた別

に記憶喪失とかじゃないでしょ」「って言うレイムとアキユウのくだりがやめたいから。

レイムはキミシから世界感、最後の一枚に関する説明、そしてそれを持つがゆえにコロリストにしたてあげられ、河童からはもちろん、天狗からすらも迫害されるアヤの孤独を知る。

「そっいえば、あいつ、走って逃げ回っているみたいだったんだけど」「最近、先パイが飛んでいるところを目撃したという情報はありません。そのまっけての噂がたったんです。砂名丸アヤは翼を失ったのではないかと」

「お願いです…先パイを助けてくださいー！」

シーンはアヤへ。

河童軍団の第二波がアヤに迫る。そこに魔理沙登場。

「おっとお、ソイツはあたしの獲物だ。…入ん、睨んじゃってママ。そう邪険にするなよ。なかよくせよっつ、せー！」

マスターパークで蹴散らす魔理沙。そしてアヤに向き直る。

「おーおー、河童たちも必死だなあ。しかしその格好、よく見りゃアンタも相当必死みたいだな。アンタほどの妖怪が…いっせえ。やっほの、そのおま、すっつっくほっつ」

イク、ヒナ、ミスティアを召喚する魔理沙。

「ちよっとまっけて！オマエは呼んでねえー」「It. s showtime!!」と叫ぶやいなやかっ飛ばされるみすちー。しかし襲い来るイク、ヒナ。

次回へ続く。

『GOD SPEED GIRL』

案内をかねて山を散策するキミシとレイム。

アヤのことが心配かと尋ねるで「心配ですけど大丈夫です。きっと誰がどんな嘘をついても、先パイのカメラが全部暴きますー！」とキミシ。これ伏線。

「ここにちわ、天狗様」

ふいに現れる「アツ」。風をなぐす風システムが完成しつつあり、アヤがつかまるのは時間の問題であることが告げられる。

ついでのまっけて最後の概要も告げられる。

